

第2回京丹後市文化財保護審議会

- 1 開催日時 平成22年7月27日(火)午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 アグリセンター大宮 視聴覚教育室
- 3 出席者 田中光浩委員、平井久夫委員、糸井秀太郎委員、
吉江俊昭委員、城下圭介委員、藤田泰弘委員、富澤孝雄委員、
足達礼三郎委員
- 欠席者 吉岡英一委員、今村純訓委員
- 事務局 米田教育長、吉岡教育次長、三浦館長、吉田課長、横島補佐、
岡林主任、小山主任
- 傍聴人 0人
- 一部非公開 京丹後市審議会等の会議の公開に関する条例第5条第1項第5号のア、ウに該当
- 4 内 容
- (1) あいさつ
- (2) 議事
- ① 平成22年度文化財関係事業経過報告について 資料1～5
- ② 京丹後市指定文化財について (非公開)
- ③ その他

5 要 旨

● あいさつ (米田教育長)

みなさんこんにちは。暑い日が続きます。本日新聞を見ていますと全国で熱中症になった人が一週間で1900人、亡くなった方は57人という数字が出ていました。実際にはその数倍の方が熱中症にかかっているといわれています。例年のない暑い夏ですが、体調に十分気をつけて乗り切っていただきたいと思います。さて、本日の審議会はレジュメにもありますように、22年度の文化財事業の経過報告と新市指定文化財の審議をお願いしたいと思います。現在学校再配置の地区を回っています。伝統校をなくすお叱りや小規模の良さなど多くの意見を聞いています。大きな学校で自分らしさが出せなくなるのではという親の心配も聞きます。しかしながら、京丹後市の人口減、特に子どもの人口の減少という事実も受け止めなければなりません。5年前6696人だった4～15歳の人口は現在5963人と千人弱減っています。人口推移を予測する組織によると5年後の4～15歳の人口は5112人、10年後は4312人と予測しています。

しかし、現在の0歳が小学入学時の児童生徒数は4399人になる事がわかっており、予測より急速に減っていることがわかります。教育委員会としても子どもの減少という事実はどう対応すべきか考え、郷土に誇りを持つ子どもたちを育てたいとねらいをもって「教育改革構想」を立て、将来「丹後学科」のような地域中心の副読本を作成していきたいと考えています。「自分の口で丹後を語れる」そんな子どもたちを目指して、教育委員会も取組みますので、時期がきましたら審議会委員の皆様のお力添えも是非いただきたいと考えています。

文化財の事業の方ですが、発掘調査も先週より現場作業に着手しています。また8月3日4日には世界ジオパークの認定に向けて、海外からの視察を迎える予定です。資料館のほうでは永浜宇平氏関連の展示会を開催している最中ですし、秋には京丹後市小町ろまん短歌大会も予定しています。様々な事業を予定していますので、子どもたちにも参加を呼びかけ、文化財を盛り上げていきたいと考えています。本日は暑い中よろしくお祈りします。

(会長) みなさんこんにちは。暑い中、またご多忙のところ第2回の文化財保護審議会にお集まりいただきありがとうございます。本日の議題は、文化財事業の経過報告、新市指定文化財の審議をお願いしたいと思います。2の議題の審議に入る前に休憩を入れる予定をしています。そのあと、その他の議題を終えて終了することにしています。本日もよろしくお祈りします。

(課長) 本日は、今村委員と吉岡委員より事前に欠席の連絡を受けていますので、ご報告いたします。それではこれより先の議事進行については、平井会長をお願いしたいと思います。よろしくお祈りします。

議事

①平成22年度文化財関係事業について

(会長) それでは、1の議題平成22年度文化財関係事業経過報告について事務局より説明をお願いします。

(課長) まず最初に資料の確認を行ないます。事前送付した資料のほかに当日資料として、永浜宇平生誕130周年記念展示の資料【資料5-1】、京丹後市小町ろまん短歌大会関連資料が2種類【資料5-3・5-4】、網野郷土資料館展示ガイド【資料3-3】、新市指定文化財審議用の資料【資料7】が4種類、そして部数の関係で委員のみなさんだけに山陰海岸ジオパークのパンフレットが3種類用意をしています。資料を利用しながらそれぞれの担当の方から説明をさせていただきます。まずは埋蔵文化財関係から行います。

(事務局) 事前にお配りした「埋蔵文化財発掘調査計画について」というA4の資料、地図、図面【資料1】の3枚を見てください。松山遺跡は大宮第3小学校の横に存在する遺跡です。昨年試掘調査を実施し、今年は本調査を実施し

ます。府営圃場整備関連事業に伴う発掘調査で、京都府、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターと京丹後市の3者が調査を実施します。市の調査は7月20日から始まっており、20日と21日の両日で重機による表土除去を行い22日から作業員による調査を行い現在で4日目になります。今は遺物を含む黒色土を精査している最中です。流路と思われる遺構を発見し調査しています。調査は2名体制で行っています。予算総額216万円ですが、うち国庫補助100万と京都府より50万の補助をもらって実施します。調査期間は7/20～8月末まで9・10月を整理作業にあて、今年度中に報告書を刊行する予定です。まだ、調査が始まったばかりなので、成果を申し上げる段階には至っていません。

(課長) 関連して埋蔵文化財調査研究センターの行っている調査ですが、大内北古墳群の現場では天井石を見つけ、現在内部を調査中です。また、ほかに集石遺構が3ヶ所見つかっています。詳細はまだ不明ですが、経塚になる可能性があります。中央部には木棺直葬の埋葬施設があり、現在その内部の調査を進めています。続いて京丹後市文化財セミナーについて事務局から説明します。

(事務局) 事前にお配りした京丹後市文化財セミナーのご案内【資料2】と書いてある資料をご覧ください。実はこれは次号の京丹後市お知らせ版の原稿です。9月26日には第1回文化財セミナー「永浜宇平を語る」を丹後庁舎の2階会議室で予定しています。古代の里資料館での特別展示と関連して開催するものです。講演は職員の橋本が行いますが、永浜宇平氏の娘さんにもお話をさせていただき予定です。第2回目は市史資料編「峯山藩関係資料集」の刊行を記念し、10月23日に峰山総合福祉センターで執筆でもお世話になった水本先生、山田先生にお話をさせていただき予定です。委員の皆様にもぜひ参加をいただきたいと思えます。市史編さん事業について、今までの経過を少し説明しますと、昨年2冊の資料編を刊行いたしました。「峯山藩関係資料集」は多くの人に購入いただき、現在在庫がゼロの状態です。当日までに増刷できればと考えていますが今のところ確実にできるとは言えません。考古資料編は峯山藩の資料数より多い900部印刷し、今までに400部以上販売しました。残りは130冊ほどですが、現在も購入希望があり、順調に推移しております。今年度は丹後震災復興資料集を現在作成中で年度内に刊行の予定です。以上です。

(課長) 続いて、資料館関係について、館長から説明をお願いします。

(館長) 網野郷土資料館では、5月から6月に井上正文庫展【資料3-1】を開催しました。氏が携わった書籍や論文等100点展示し、2ヶ月で100名の方にご来館いただきました。この数が多いのか少ないのか例年の様子がわからないのでよくわかりませんが、中には熱心に時間をかけて見学しておられる入館者もおられました。丹後古代の里資料館【資料3-2】と網野郷土資料館の展示ガ

イド【資料 3-3】を資料として配布させていただきました。それぞれの資料館の展示について解説がしてありますのでまた時間のあるときにゆっくりとお目通しください。

(課長) 文化財の補助金について、事務局より説明します。

(事務局) 事前に配布した資料の平成 22 年度文化財関係補助金事業計画一覧【資料 4】と書いてある表の資料をご覧ください。京都府社寺等文化資料保全補助金は数多くの希望が地区からありましたが、京都府の採択基準が厳格化しており、本年度は建造物、美術工芸品、防災防犯、無形民俗のジャンル 16 件が現在京都府に事業計画を受け取っていただいています。また、国指定文化財と府指定文化財の維持管理に関する補助金も 3 件申請しています。社寺等文化資料保全補助金については、まだ内定は来ていませんが、ほぼこの団体は大丈夫だと思われます。内示は 7 月末～8 月上旬の予定です。これら 19 件の内定が出たものについては、実績額が確定した後、市の補助金要綱に基づいて、京丹後市の補助金も交付する予定です。

(課長) 古代の里ミニコンサート事業【資料 5-2】については私のほうから説明します。7 月 12 日に古代の里資料館の竪穴住居で開催しました。参加者は 52 名とほぼ予定どおりでした。夜間の竪穴住居の貸出は想定していないので、投光機等を用いて対応しました。大変良い感じで開催できたので、今後竪穴住居での貸館や音楽会の開催も検討できると考えています。続いて小町ろまん短歌大会【資料 5-3・5-4】について説明します。社会教育課を中心に現在短歌を募集している最中ですが、文化財保護課は期間中歴史散策ツアーを実施します。市のバスを利用して 2 コース考えています。定員は 30 人と 20 人とし、簡単な冊子を作成し、文化財保護課の職員が添乗し、説明する予定です。委員より稲葉家の短歌集について資料をいただいていますので、当日短歌集も資料として利用する予定です。また、審議会委員さんには観光振興課よりジオパークのパンフレットを 3 種類を取り寄せ配布させていただいています。8 月 3 日 4 日と世界ジオパークの海外委員の視察が市内で行われる予定です。順調に行けば、10 月頃には世界ジオパークに認定されるかどうか結果がわかります。

(会長) 事務局より、文化財関連事業の経過報告、今後の事業予定の説明をしていただきました。これまでの説明に意見や質問はありませんか。

(委員) 小町ろまん短歌大会の歴史散策資料【資料 5-4】の羽衣天女の伝承の章に伊勢神宮の外宮に触れた部分があります。私は、伊勢神宮についてはもっと詳しく説明をしたほうがよいのではと思います。

(課長) 今年の短歌大会はアミティ丹後が会場のため、歴史散策ツアーも同じ場所から出発し A コースは丹後町と網野町、B コースは網野町を予定していま

す。羽衣天女については、来年度が丹後文化会館での開催のため、そこで詳しく触れることができると思いますが、今年度はコースとの兼ね合いもあり、丹後7姫については軽く触れる程度の解説にしています。

(委員) 私が言いたいのは、伊勢外宮の話は大きな題材なので、羽衣天女の中で触れるのではなく、一つの章を立てて解説をしたほうが良いのではという意見です。来年度に向けて検討してください。

(委員) 松山遺跡で発掘調査を行うそうだが、京丹後市も現地説明会をする予定はしていますか。

(課長) まだ調査に着手したところで成果がどうなるのかわからないので断言はできませんが、現段階では公費を使って行う調査なので少なくとも関係者説明会は行う予定をしています。

(委員) 調査主体が3つあるという説明でしたが、現地説明会はどういう風にする予定ですか。

(事務局) 調査面積は京都府埋蔵文化財調査研究センターが突出しており、センターの現地説明会がメインの説明会という位置づけになると思います。

(委員) 調査主体が3つに分かれるのは理解できるが、調査の成果を発表する現地説明会の対応がバラバラなのは如何なものかと思う。

(課長) 委員のご指摘は最もだと思うが、調査主体が別であり、その調整は大変時間もかかり難しいことを理解していただきたい。また調査期間が異なるという問題もあり、3者が合同で現地説明会を開催するのは現実的には非常に難しいと思います。

(委員) 自分の機関の事だけ考えているようでやはりおかしいと思う。多くの人に成果を知ってもらうためにも説明会についても調整したほうがよいと思う。

(委員) 出土遺物の保管はどうなるのですか。

(事務局) 基本的には調査主体が保管することになっているため、当初は3ヶ所での保管になります。遺物譲渡が認められれば、将来的には京都府と京丹後市の2ヶ所での保管になります。

(委員) 同一遺跡の遺物が3ヶ所に別れていては、研究者が遺物見学をするのも大変手間がかかる。

(会長) ほかに何か質問やご意見はありませんか。なければ次の議題へ移りたいと思います。

② 京丹後市指定文化財について 非公開

③ その他

(課長) 全体を通して何か意見はありませんか。なければ事務局から1つ提案します。

(事務局) 第3回の審議会前に毎年行っています審議会の一泊研修を予定したいと思っています。今までの流れの中で、ジオパークに取り組んでいる地域、鳥取県・兵庫県の施設や地域での取り組みもしくは、先に世界ジオパークに認定されている糸魚川あたりに研修へ行けたらと考えています。別の場所という希望があれば、是非この場で提案いただきたいですし、なければこの方向で会長一任ということで話を進めていきたいと思えます。できれば10月中下旬に計画できればと考えています。委員皆様のご意見をお聞かせください。

特に意見なし。

●閉会あいさつ(富澤副会長)

長時間の審議ご苦勞様でした。今までと異なるジャンルの話で難しい部分も多くあったと思います。本日新しいジャンルの提案もあり次回までにまた思いついたものがあれば提案をいただきたいと思えます。皆様のご協力をよろしく願います。本日はご苦勞様でした。